

# フィルムになった風景

vol.11

黒白のコントラストが美しい  
「松本城」  
古き良き時代が映像として残る  
「上高地」



市役所屋上より望む松本城と北アルプス

松本市

黒と白のコントラスト。四季折々、さまざまな表情を魅せる国宝「松本城」——松本市のロケ地ポイントとして言えば、どうしても松本城が見える場所からの撮影が外せません。とくに俯瞰の情景撮影では、松本城が見える市役所屋上もよく利用されています。



市役所屋上で行われた映画『岳』の撮影風景

それともう一つのロケ地ポイントが、特別名勝の「上高地」です。5月の新緑の季節には、旅番組などの取材がぐっと増えます。

どちらも松本市が誇る観光地ですが、多くの映画やドラマの撮影に使われています。

松本城が写っている映画には次のようなものがあります。『姉妹』（1955年、家城巳代治監督）、『美しい暦』（1963年、森永健次郎監督）、『三大怪獣 地球最大の決戦』（1964年、本多猪四郎監督）、『黒部の太陽』（1968年、熊井啓監督）、『トラック野郎 熱風5000キロ』（1979年、鈴木則文監督）、『ロックよ、静かに流れよ』（1988年、長崎俊一監督）、『千利休 本覚坊遺文』（1989年、熊井啓監督）、『時をかける少女』（1997年、角川春樹監督）、『HERO? 天使に逢えば…』（2004年、鶴見昂介監督）、『仮面ライダー響鬼』（2005年、坂本太郎監督）、『ミッドナイトイーグル』（2007年、成島出監督）、『神様のカルテ』（2011

年、深川栄洋監督）、『神様のカルテ2』（2014年、深川栄洋監督）。



穂高の山並みが湖面に映る、上高地の大正池

一方、上高地は『新しき土』（1937年、アーノルド・ファンク監督）、『死の断崖』（1951年、谷口千吉監督）、『霧の音』（1956年、清水宏監督）、『ひばりが丘の対決』（1957年、中川信夫監督）、『新吾二十番勝負（完結編）』（1963年、松田定次監督）、『極底探険船ポラーポーラ』（1977年、アーサー・ランキン Jr. & ジュール・バス監督）、『岳』（2011年、片山修監督）他。中には今では観ることができない作品もありますが、古い作品でもだいたいビデオやDVDで観ることができます。年配の方には懐かしいタイトルも多いのではないのでしょうか。

上高地が写る古い作品を観ていると、現在の大正池にはほとんどなくなってしまった「枯れ木」がまだたくさん残っていて、こんなにあったのかと驚くばかりです。また、大正池で泳いでいたり、探険船が浮かんでいるシーンもありますが、今ではこのような撮影も難しいでしょう。映画の中に写る建物や風景は、時代とともに変わっていく——その変わりゆくものを映像として残していくことができる映画っていいなと思います。

撮影実績やロケ地については、ロケ地マップを作成し松本市観光案内所と松本市観光情報センターで配布しています。詳しくはそちらをご覧ください。

（執筆／一般社団法人松本観光コンベンション協会 フィルムコミッション担当 小林）